

平成30年度 第1回いわき市保幼小連携協議会議事録

1. 開催日時

平成30年10月29日（月） 午後2時00分から午後3時30分

2. 開催場所

いわき市役所 3階 第3会議室

3. 出席者

(1) いわき市保幼小連携協議会委員（11名のうち10名出席）

齋藤政子委員、鈴木美枝子委員、新妻英昭委員、後藤幸一委員、吉村昭一郎委員、上野由美子委員、安島久恵委員、高萩有子委員、柳沼広美委員、高萩文克委員

(2) 事務局（9名）

こどもみらい部： 山田次長兼総合調整担当

こども支援課： 小島課長、中村主幹兼課長補佐、箱崎保育・教育係長、阿部総括指導教諭、鯨岡主査、草野主事

総合教育センター： 渡邊教育支援室主任主査兼室長、黒津研修調査室主任主査

4. 議事

(1) いわき市保幼小連携プログラムの策定に係る協議経過及び今後の予定について

(2) 保幼小連携に係る調査結果について

(3) 保幼小連携コアカリキュラムの柱等について

(4) その他

5. 会議の運営について

(1) 会議開催形式

本日の会議を公開することについて、情報公開等の観点から特に支障が生じる事由がないことを確認した。

議事録の作成については、議事に直接関係する発言又は説明内容のみを記録し、委員名を記録しない「要点筆記方式」で作成することとした。

(2) 議事録署名人

議長の指名により、吉村昭一郎委員、上野由美子委員の2名を選出した。

6. 発言内容

(1) いわき市保幼小連携プログラムの策定に係る協議経過及び今後の予定について（資料1）

発言者	発言内容
議長	「3 議事 (1) いわき市保幼小連携プログラムの策定に係る協議経過及び今後の予定について」事務局からの説明を求める。
事務局	会議資料に基づき説明（こども支援課：小島課長）
議長	説明内容に対し、何か意見・質問があれば、発言願いたい。
A委員	現場で活用できる実践事例は、どのようなものをイメージしているか。
事務局	現場で実践している事例を収集して、目的ごとに活動を結びつける形で、体系立てながら整理していく。
議長	各現場で実践している効果的な実践事例を収集し、他の現場でも活用できる事例集をイメージしている。 何か意見・質問があれば、発言願いたい。特にないようなので、次に移る。

(2) 保幼小連携に係る調査結果について（資料2）

発言者	発言内容
議長	「(2) 保幼小連携に係る調査結果について」事務局からの説明を求める。
事務局	会議資料に基づき説明（こども支援課：小島課長）
議長	調査結果から、多くのことが読み取れる。 保育目標・教育目標は、学習指導要領に書かれている文言を踏まえたものが多い。 「子どもの成長・育ちにおいて近年特に大事にしているところ」については、自己肯定感、命の大切さ、頑張り抜く力などの、困

	<p>難を乗り越えてきた経験を元に、教職員全員で共有していきたい思いが込められている。</p> <p>「保幼小連携の意義」については、保育所、幼稚園、小学校のどの施設においても、就学の喜びが、幼児にとって何より重要であり、それが感じられるように配慮する、配慮されることが大事だと考えられ、工夫されている現状も、評価できる。</p> <p>「入学当初は特別なカリキュラムを導入している」については、64.5%と高い割合で実施されていて、評価できる。一方、小学校の「スタートカリキュラムの重要性を認識できた」は、38%と低い。スタートカリキュラムについては、小学校の中で、議論の必要があると思われる。</p> <p>5歳後期と、小学1年生の4～5月のスタートカリキュラムについて、いわき市では、実践の積み上げがこれからであり、課題である。</p> <p>時間がない中で、交流・話し合いの場を確保するのが難しいという声もある。しかし、日野市の小学校では、スタートカリキュラムの実践によって、数年の間に、小学1年生の児童の姿が、変わってきた実感がある。</p> <p>先生方が忙しいということは伝わってくるが、園児と児童、両方のために取り組んでいく位置づけが、ますます必要になっていくと思われる。</p> <p>何か意見・質問があれば、発言願いたい。</p>
A委員	<p>「望ましい保幼小連携ができているか」の問いについて、保育所・幼稚園と、小学校のアンケート結果が異なっている。</p> <p>「望ましい」のイメージが、双方で異なっているのではないか。事務局が考える「望ましい」とは、どういうものか。</p>
事務局	<p>アンケート回答者の主観になっている。</p> <p>直接連動はしていないが、「保幼小連携について感じている、考えていること」の記載では、保育所・幼稚園ともに、小学校ともっと連携を密に取りたいと回答があった。一方、小学校では、重要なことは認識しているが、現実には難しいという回答になっていた。</p>
A委員	<p>「望ましい」のイメージが、保育所・幼稚園と、小学校ですれていては、連携が難しい。共通認識を出し合っていないと、目指</p>

	<p>す方向が見えてこないのではないかと懸念している。</p>
B委員	<p>小学校は、様々な保育所や幼稚園から、子どもを受け入れる。考え方について、共通理解しながら、スタンダードなカリキュラムを作成する必要がある。</p>
事務局	<p>意見を踏まえ、カリキュラム作成は、現場の先生方と意見を交換し合って、具体化していく。</p> <p>また、小学校の先生は、多忙だと意見も出ているため、そこに配慮もしながら、作成していく。</p>
B委員	<p>各小学校で、1年生の最初の時期は、学校生活で、子どもたちが、困らずに過ごせるよう教育課程の中に位置づけている。しかし、保育所や幼稚園、保護者側の立場の考えのもとに構築されていないところもある。</p> <p>それぞれの小学校の状況で、各校独自の教育課程を形成している。それをここでは、特別なカリキュラムと表現しているが、つまり、スタートカリキュラムを指していると考えられる。</p>
C委員	<p>就学児健康診断で、保護者が、学校から様々なことを言われて、心配しながら帰ってくる。保護者と、子どもの不安を取り除くような形で、保育所や幼稚園の範囲で、できることは何か、小学校は、保育所や幼稚園の範囲で、できることを理解したうえで、方向性が出せればいいと思う。</p> <p>接続期の大事な部分が、入学後の生活のための練習になるのは、望ましくない。</p>
D委員	<p>保育所や幼稚園は、小学校の準備期間ではない。</p> <p>基準となるものが、きちんと示されれば、保育所や幼稚園、小学校でも、接続期で大事な部分というものが分かる。土台となるものをこれから作っていくうえで、明確にする必要がある。</p>
B委員	<p>一部の教員が、学習指導要領をきちんと認識していない。誤った情報が、保護者の間に伝わり、不安にさせている可能性がある。</p>
A委員	<p>現場で、障がいのある子どもの情報は、共有されているか。</p> <p>グレーゾーンの子どもの情報共有も、図られているか。</p>

B委員	<p>現場では、就学児健康診断が始まる1か月前から、関係機関や各地区保健福祉センター、保育所、幼稚園に問い合わせているが、ほとんど回答はない。</p> <p>いわきっ子入学支援シートの導入時期について、検討してほしい。就学児健康診断の際に持参してもらい、最終面談、市教育委員会に報告と、合理的に準備を進めていきたい。入学説明会や、入学式の際に持参では、支援員の配置、特別支援学級の準備等が、間に合わない。</p>
議長	就学児健康診断と入学説明会は、いつか。
事務局	<p>就学児健康診断は、10月くらいで、入学説明会は、1月から2月である。</p> <p>いわきっ子入学支援シートは、子育て等に不安を持っている保護者が、支援の方法について、相談等をする一つ的手段であって、障がいの部分で、子どもたちを選別する趣旨のものではない。提出を早めると、趣旨が変わってしまう恐れがある。</p>
A委員	趣旨が変わるとは、どういう意味か。
事務局	<p>いわきっ子入学支援シートを書くことで、特別支援学級に行くという情報になって保護者に伝わると、提出の割合が減って、本当に支援を必要とする子どもの情報が、伝わらなくなる可能性があり、望ましくない。</p> <p>就学には関係ないとして、提出を求めている現状で、提出率は、23%である。就学に関わるとなれば、提出率が下がる恐れがある。</p>
B委員	<p>就学児健康診断の際に、いわきっ子入学支援シートを提出してもらおうと、現場は、次年度の準備がしやすい。</p> <p>健康診断のときに、子どもの様子が気になっても、いわきっ子入学支援シートがないと、踏み込んで確認することが難しい。入学説明会後に、校長面談をして、支援が必要だと判明し、保護者と話し合ってから、就学に関する手続き等を進めていくとなると、現場は厳しい状況になる。</p> <p>しかし、保幼小連携という観点からは、ここでクローズアップすべき問題であるかは、疑問である。</p>

議長	<p>保幼小連携自体は、小1プロブレムを発端にして始まっているため、特別支援と密接な関係がある。</p> <p>いわきっ子入学支援シートとは、どういった位置づけか。</p> <p>提出率 23%は、具体的にどのような数字か。</p>
事務局	<p>平成 30 年度の入学児については、2,700 人程度に対して、提出が 590 人程度である。提出率を上げたいが、提出したがない保護者もいる。</p>
E 委員	<p>保育所・幼稚園では、就学児健康診断の前に、説明して配布している。施設によっては、それよりも前に、保護者に説明して、記入をすすめることもあり、そのおかげで、相談がスムーズに進む。選別するという意図はない。</p>
A 委員	<p>選別ととらえるか、ケアととらえるかで、いわきっ子入学支援シートへのイメージが、異なってくる。</p>
B 委員	<p>支援が必要な子どもについて、学校側では、何も情報が分からない状態で入学して、通常学級に入るとなると、通常の授業についていけず、学級崩壊するような恐れがある。円滑な接続以前の問題と感じる。</p>
E 委員	<p>保育所では、入所式の際に、保育要録といわきっ子入学支援シートについて、説明している。子どもの本当の育ちを小学校へつないでいくには、入学支援シートは、とても大事である。保護者の同意を得て、支援シートを記入しており、療育に通園している子どもは、療育の方の関わりも書けるため、とても有効である。</p> <p>入学説明会の際に提出するのでは、確かに遅いと感じる。</p>
議長	<p>保育要録は、どのように活用されているか。</p>
B 委員	<p>各小学校で、有効活用するまでに至っていない。様々な確認事項に活用している。</p>
議長	<p>保育要録を小学校に届ける時期は、いつごろか。</p>
事務局	<p>3月の終わりごろで、学級編成がほとんど終わった時期である。</p>

議長	<p>保育要録より、支援シートの方が、子どもの様子が早く学校に伝わり、有効なのではないか。可能な限り、多くの保護者に提出してもらいたいところである。</p>
B委員	<p>提出率を上げ、全員が提出するようになると、かえって現場の負担が増え、煩雑になる。</p>
議長	<p>いわきっ子入学支援シートの活用については、こどもみらい部と、総合教育センターと相談する必要があるように感じる。</p>
事務局	<p>いわきっ子入学支援シートは。教育センターとこどもみらい部の連携が重要である。</p> <p>子どもの育ちを心配している保護者は、サポートセンターや教育センターに相談があり、いわきっ子入学支援シートに記載がなくても、学校との情報共有をしている。療育施設に通っている子どもの保護者の中には、センターへの相談や、いわきっ子入学支援シートへの記載がない保護者もいる。</p>
C委員	<p>幼稚園、保育所は、まず保健福祉センターの相談会に参加し、それから、年長になって、教育センターとの相談になる。その際、保健福祉センターでの相談内容は、教育センターに伝わっていないような事例がある。同じ役所なのに、情報共有ができておらず、手間がかかる。</p> <p>このような意見のあとに、いわきっ子入学支援シートがつけられたと記憶している。</p>
事務局	<p>子育てサポートセンターでは、就学前の相談を行っている。その中で、発達支援の必要な子どもが増え、相談件数も増えてきている。</p> <p>いわき市では、平成28年にいわきっ子入学支援シートを開発し、小学校に情報が伝わる仕組みに取り組み始めた。</p> <p>子育てサポートセンターと、学校が連携をしながら、どのように広めていくか、時期などの課題もあるが、取り組みながら、課題の解決を進めている。情報を渡すだけでなく、学校の中で使ってもらい、必要があれば、心理士や教育センターの担当者が中に入り、支援会議も実施している。</p> <p>市としても、これが保幼小連携の大きな柱の一つになると考え</p>

	ており、意見をいただきながら、より良いものを目指していきたい。
A委員	いわきっ子入学支援シートの提出率 23%について、提出率を上げていくのか。それとも、必要な人だけが提出するよう促していくのか。
事務局	支援を必要とする子どもの保護者からの提出率が、100%であれば、全体の提出率が低くても問題ないと考える。 実際のところ、支援が必要と思われる子どもの保護者からの提出率は、80%から 90%と高い。この割合を高める必要はあると考えるため、取り組んでいく。
B委員	学校現場としては、必要のない情報や形だけの情報は、精査するだけで手間がかかってしまうので、欲していない。
事務局	その意味では、希望する保護者のみが提出しているため、全体の提出率としては、低くなっている。
C委員	幼稚園の先生は、日々の業務プラスアルファで、プレッシャーを感じながら書いている。
A委員	いわきっ子入学支援シートは、幼稚園の先生が書いているのか。
B委員	保護者が記載し、それに対してどのような取り組みをしているかを、幼稚園・保育所側で記載して、小学校に届けている。
A委員	離婚、ひとり親等の家庭の情報は、いわきっ子入学支援シートに記載されるのか。
事務局	いわきっ子入学支援シートに関しては、特別支援教育関係のものであるため、家庭の問題等についての記載はない。
議長	家庭の問題等についての情報は、要保護児童対策協議会が請け負っている。
事務局	就学前の児童については、学校に情報は行かないが、各地区保健福祉センターを中心に、情報管理をしている。

議長	困難を抱えている子どもの家庭についての支援は、また異なる視点で取り組む必要があると考える。
事務局	貧困家庭については、就学前の生活保護の申請で、学校は把握している。
議長	他に何か意見・質問があれば、発言願いたい。特にないようなので、次に移る。

(3) 保幼小連携コアカリキュラムの柱等について（資料3）

発言者	発言内容
議長	「(3) 保幼小連携コアカリキュラムの柱等について」事務局からの説明を求める。
事務局	会議資料に基づき説明（こども支援課：小島課長）
議長	説明内容に対し、何か意見・質問があれば、発言願いたい。
C委員	生きる力の育成の柱について、二つの文言が出てきているが、これはグルーピングから出たものか。それとも、保育要領から出したものか。
事務局	アンケート結果のグルーピングから出てきたものである。いわき市版としてまとまっている。
議長	いわき市の保育所、幼稚園、こども園、小学校が、保育・教育で大事にしていることから抽出し、いわき市版としてまとまった。
F委員	現場は、とにかく忙しい。プログラム自体は、よいものと思うが、押しつけになってしまえば、意味がない。根本的な情報共有が、一番必要だと感じる。 プログラムを作って、さらに時代に合わせて作り直していかなければ、作っただけのものになってしまう恐れがある。
事務局	同様に危惧している。 役所の人間だけでは、プログラムは作れない。現場の先生の考えが、一番大事だと考えている。

	<p>活用していく際にも、現場に過度な負担をかけないよう配慮しながら、協議をしてまとめていきたい。</p>
G委員	<p>「教師、保育者の姿」の柱について、単語表現になっている。様々に解釈できてしまうため、他のものと同じように文章にした方が、共通理解を得やすいのではないかと。</p> <p>いわき市は、広域で地域によって差がある。無理に均一化するのではなく、いわき市の特徴を生かした、その地域でできる連携を事例として挙げて、まとめてはどうか。</p>
事務局	<p>単語表現については、整理させていただく。</p> <p>事例の収集は、一回で終わるものではない。その都度、地域での連携事例を加除修正していく形を考えている。</p>
H委員	<p>中には、支援が必要であったとしても、支援学級に行かせたくないと思っている保護者もあり、いわきっ子入学支援シートを、あえて書かないことがある。</p> <p>第三者が、いわきっ子入学支援シートを記入するよう促して、提出させることはあるか。</p>
事務局	<p>障がい認めない、認めたくない保護者はいる。いわきっ子入学支援シートは、障がいのある子どもの保護者だけが書くのではなく、子どものよりよい育ちのために、必要なものである。保育要録と異なり、保育所や幼稚園の先生の記載を、保護者が見て押印し、提出するため、みんなで情報を共有している。</p> <p>大事なのは、幼稚園や保育所の先生が話をし、サポートセンターや相談会という選択肢を、保護者が、自然と考えられるようにすることである。信頼関係を構築して、関係機関が、協力し合いながら、取り組んでいく。いわきっ子入学支援シートを強制するのではなく、保護者が、納得して提出できるよう努めている。</p> <p>相談活動に、「来なさい」と保護者に声をかけることは、していない。相談するかどうかの決定権は、保護者にある。</p>
C委員	<p>保護者に声をかけるのは、難しい。話し方やタイミングによっては、信頼関係が崩れてしまう。支援が必要かどうか、集団生活の中で見極めて声かけをしていくため、時間がかかる。</p> <p>信頼関係を築きながら、徐々に対応しているが、保護者が声か</p>

	けに応じてくても、なかなかサポートセンターの予約が取れない現状にある。
議長	他に何か意見・質問があれば、発言願いたい。特にないようなので、次に移る。

(4) その他

発言者	発言内容
議長	「(4) その他」について、事務局で何かあれば、発言願いたい。
事務局	協議会の今後のスケジュールについては、全体案の作成後、協議する。
議長	事務局の提案に対し、何か意見・質問があれば、発言願いたい。特になければ、以上で、本日の議事のすべてを終了する。以上をもって、私の本日の議長の任を解かせていただく。